

第3回フィールド試験(1月31日)

岐阜大

実地試験を実施

舗装と盛土点検・
診断自動化技術

舗装と盛土の点検・診断を自動で計測する技術のフィールド実験が養老町の県道214号線で行われ、その効果が検証された。

内閣府が推進する「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」事業に採択された技術を



検証する岐阜大学が、セキ国や県、大学、民間企業と岐阜県建設研究センターの共同研究グループが開発した「舗装と盛土構造の点検・診断自動化技術」の実地試験を開いた。写真。

現在、道路舗装の維持管理では、路面に現れたひび割れなどの症状を基に予防保全的にオーバレイなどの補修を行ってきた。しかし、舗装の劣化原因を把握して抜本的に対策が行われることはほとんどなく、同じ場所で再度ひび割れなどが発生し補修が繰り返され将来的なコストの増加が懸念されている。このため、地表から十数センチの深さの状態を点検、確認するための自動化診断技術を開発。これにより、舗装と盛土の健全度と盛土の安定度、さばりに液状化危険度を定量評価し、抜本的に対策を行うコストの増加を抑える。また、WebIGIにより、現場でリアルタイムに計測結果を管理者に提供し、迅速に予防保全に活用できるなどの特長を持つ。

